

## 受験対象者と現職空自パイロット要員の意見交換会

自衛隊神奈川地方協力本部上大岡募集案内所（所長 平原一陸尉）は、5月2日（水）、現職の航空自衛隊パイロット要員と防大航空要及び航空学生の受験を検討している対象者との意見交換会を設けた。

これは、神奈川地本から平成29年度の一般幹部候補生航空飛行要員に合格し、一般幹部候補生課程（奈良）を卒業後、現在第12飛行教育団（防府北）の飛行準備課程に入校中の滝口3等空尉がゴールデンウィークを利用して帰郷した際に、対象者たちと懇談し意見交換を行ったものである。

当日は、将来自衛隊のパイロットを考えている4名の受験対象者がこの声掛けに対し、積極的に参加してきた。対象者からは、「パイロットになるには、防大と航空学生のどちらが良いか」「受験準備や英語力の身に着け方は」など、期待や不安を交錯させながらも、現時点での素直な気持ちを投げ掛けるとともに、「飛行準備課程の内容や戦闘機の性能は」など、より詳しい内容の質問が飛び交うなど終始盛り上がりを見せていた。最後に、親身に話してくれた滝口3尉に対し、「来年の春に入校できるよう勉強を頑張ります」と元氣よく答えてくれた。対象者たちと意見交換をした滝口3尉は、「後輩のために貢献できて良かった」と満足そうに話してくれた。

上大岡募集案内所は、「今後もあらゆる職種の若い現職自衛官に声掛けをし、連携しながら募集対象者を受験に導いて行くとともに、色々な施策に取り組み受験率向上に努めていきたい」と話している。



滝口3尉（右奥）に質問する対象者

## 「予備自衛官招集訓練1日間」を実施

自衛隊神奈川地方協力本部（本部長 1等海佐 山野大資）は、4月22日（日）、本部庁舎において新たに予備自衛官に採用された7名を招集し、「予備自衛官招集訓練1日間」を実施した。

当日は、辞令書交付のほか、服務の宣誓や予備自衛官等の制度説明などが行われ、参加者たちは予備自衛官としての認識を新たにしていた。山野本部長は、「予備自衛官は国民の生命と財産を守る国家防衛の重要な柱の一つである。自衛隊の即応性の一端を担っているとの自覚を持ち、今後とも訓練に参加して知識技能を身に付け、国民の負託にこたえていただきたい」と訓示し、参加者たちを激励した。

神奈川地本においては、予備自衛官、雇用企業及び訓練部隊との綿密な連携により、例年高い訓練出頭率を維持しており、平成29年度における招集訓練5日間の完全出頭率は98%を達成している。同地本は「予備自衛官に対する期待は益々増大しており、国家防衛の重要な柱の一つであるとの認識のもと、今後も予備自衛官に対する出頭促進を継続するとともに、良好な出頭環境の醸成に尽力し、予備自衛官勢力の維持・拡大に努めたい」と話している。



予備自衛官の心構えについて訓示する本部長



予備自衛官に辞令書を交付する本部長